

インドネシアの生産林における住民農業グループの現状と課題 —ジャワ島西ジャワ州ボゴール行政区チサルア郡の事例—

○吉永 由美佳 西前 出
京都大学大学院 地球環境学堂・学舎

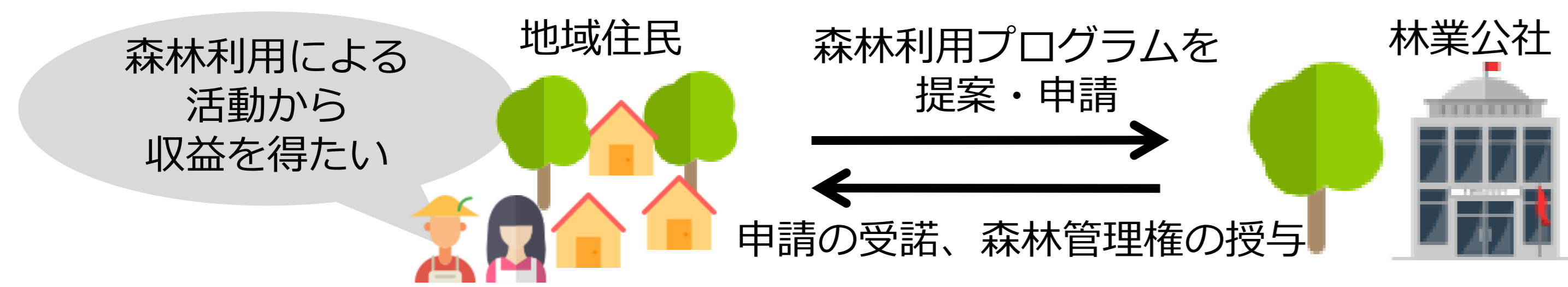
研究背景と目的

東南アジアにおける住民参加型森林管理の重要性

国家管理下の森林で伐採増加 ■ 管理主体の見直し 住民参加の促進 → **森林保全**と地域活性化による**貧困改善**を目指す

様々な地域において住民参加型森林管理が実践されており、多様な課題を明らかにすることが重要

インドネシアの生産林における事例



住民自らが**住民農業グループ**を組織し、副業として森林管理活動を実施

- しかし!
- ✓ 限定的な参加住民による利益の独占や癒着(横田, 2014)
 - ✓ 不参加住民の理解が得られず、持続的な管理が困難

目的 住民農業グループの参加者と不参加者の **社会経済的状況** **活動の認識** を比較することで住民参加のための課題を明確にする

対象地域と調査方法

西ジャワ州ボゴール行政区チサルア郡チブラオ集落
主な生業：茶畑に関連する労働

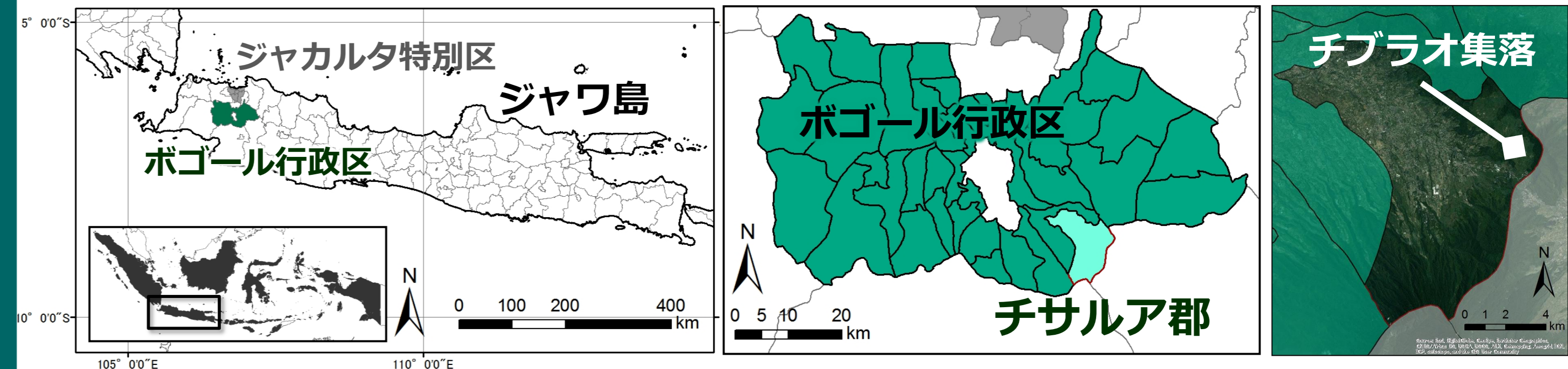


図1. 研究対象地

実施されている森林利用プログラム

自転車競技場運営



図2. 自転車競技場

コーヒー栽培



図3. コーヒー植林地



図4. 栽培されたコーヒー

ボゴール農業大学とNGOが技術面・広報等サポート

- ① アンケート調査：社会経済調査（職業、収入、教育レベル等）
 - ② 構造化インタビュー：住民農業グループ活動に関する認識と意見
- ◆ 対象：全73戸からランダムに抽出した40世帯191人
◆ 実施期間：2015年10月～1月, 2016年9月

結果①：職業と収入について

表1. 社会経済状況の比較

| | 参加世帯 (9世帯) | 不参加世帯 (31世帯) |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 世帯中の職業 | 茶畑労働者のみ | 別荘管理人 飲食店勤務... etc. → 職業の多様性 |
| 仕送り | なし | あり |
| 主業の月収が1,000,000Rp (約8,350円)以下の世帯数 | 6世帯 | 10世帯 |
| 参加または不参加の理由 | ◆ 収入を向上させたい ◆ 参加者に誘われた ◆ 研究機関やNGOが無償で技術支援をしてくれるため、安心 | ◆ 初期投資金がない ◆ 利益が得られるまで時間がかかる |



図5. 研究機関とNGOによる技術支援

- ◆ 参加世帯は収入が低いにも関わらず苗や種等の**初期投資**を決意していた
- ◆ 参加者はステークホルダーとの**信頼関係を築き、活動意欲を高めていた**

結果②：活動の認識調査について

Q. 活動に関する情報は活動開始時に提供されていたか？



Q. 活動に対してどのような印象を持っているか？(不参加世帯回答)

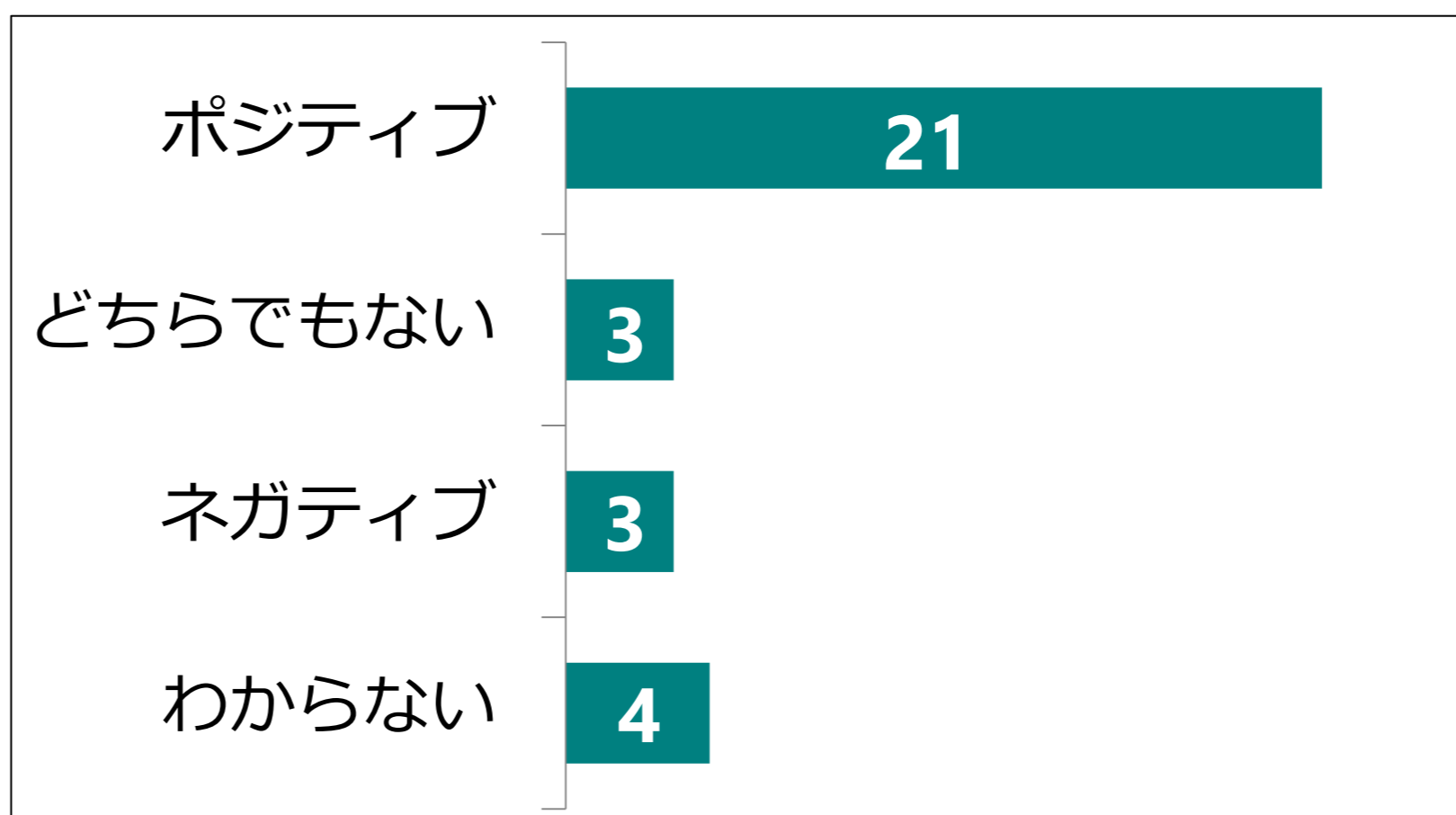


図6. 調査風景

- ◆ 活動に関する情報伝達は口伝えで行われており、**情報提供が不十分**だった
- ◆ 正確な情報を得ていないまま、活動に対して**ネガティブな印象**を持つ世帯もいた

課題

- ◆ 主業を茶畑労働のみに依存した**貧困世帯**が**初期投資**をして参加していた
- ◆ 不参加者は収入が高く収入源も多様であるが、初期投資に躊躇していた
- ◆ 不参加者はステークホルダーとの関連もなく、得られる情報も少ないため、活動に参加することで得られる**将来の利益と初期投資を比較できない**

より健全な住民参加型森林管理の実現に向けて

初期投資支援

無償の支援を提供するステークホルダーとの信頼関係の構築

イベント開催時等を利用した集落内における情報共有の徹底